

平成 23 年度第 1 回木の文化を具体化する推進委員会 摘録

- ◆ 日時：平成 23 年 10 月 12 日（水） 10:00～12:00
- ◆ 場所：京都商工会議所 第 2 会議室
- ◆ 出席者：以下参照

区 分	名 前（敬称略）	所 属
委員	青合 幹夫	京都府森林組合連合会 代表理事専務
	乾 康之助	京都木材協同組合 理事長
	岩井 吉彌	元京都大学大学院農学研究科 教授
	丘 眞奈美	京都ジャーナリズム歴史文化研究所代表
	神吉 紀世子	京都大学大学院工学研究科 教授
	中井 恵子	株式会社ケイ建築事務所 代表取締役社長
	野間 光輪子	日本ぐらし株式会社 代表取締役
	福村 乙佳	工務店 勤務
	堀井 誠史	京都府産木材認証制度運営協議会 会長
	吉川 哲雄	京の山杣人工房上京区モデル工房「木輪舎」 代表
	吉田 英治	京都市域産材供給協会 会長
事務局	山本担当部長	京都市農林振興室
	納谷課長	京都市農林振興室林業振興課
	鳥越担当課長	京都市農林振興室農政企画課
	宿院係長	京都市農林振興室林業振興課
	井上担当	京都市農林振興室林業振興課

◆ 要旨

1 開会，委員長・副委員長選出

- 挨拶，委員・事務局メンバー，委員会運営予定の確認。
- 昨年度に引き続き，委員長として岩井委員，副委員長として野間委員を選出。

2 主な内容，意見等

➤ 取組の進ちょく状況について

- ・ 近所の小学校で木質化が行われた。地元住民はたくさん木が使われていることが分かるが，ほかの人は分からない。
- ・ やはりもっと広報をしないと，木を使おうという輪が大きにならない。
- ・ 京都市の施策が民間までまだ浸透していない。特に私立学校は地域だけでなく全国的に見られる機会が多い。
- ・ 公的に助成する制度の情報発信も必要。
- ・ ただ木を使えということだけではなくて，木を使うとどんな影響があるのかということも発信していくことが必要。
- ・ 公共施設等の大きな物件は施工期間が長いので、どのようにすれば地域の木材が上手に調達のできるのか、工夫を研究していくべき。
- ・ 京都府のウッドマイレージ CO₂ 認証制度と京都市の「みやこ杉木」認証制度で、品質基準を合わせていこうかという動きは大変有難いこと。
- ・ 間伐がどんどん進んでいるため、山が綺麗になっているのは確かだが、山元に残る資金は2, 300円/m³位であり、赤字になるので循環利用するという面では難しい。
- ・ 民間の建設会社も木に対して興味を持っており，例えば若手と意見交換する場をつくれなにか。

今後の取組について

- ・ 情報発信の一つとして，シンポジウム等，何かもっと市民の方を巻き込んでいくような工夫が必要。
- ・ 北山丸太をどのように活性化していくのか，本当に真剣に考えなくていけない。

今後の情報発信について

- ・ 例えば，病院などで北山杉の切れ端などでもいいので置いてもらい，木に触れることが良い影響を与えるというのを科学的に解明してみる等。
- ・ いろいろ議論があり，まさに委員会が知恵袋という感じでもっと利用する所があるかと思う。
- ・ 単に情報を発信するだけでは駄目で，情報の質の問題が大変重要。